

プライマーMC

作成日2009年10月06日
改訂日2022年05月17日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
製品コード
会社名：
住所
担当部門
電話番号
緊急連絡電話番号
化学品の推奨用途及び使用上の制限

プライマーMC
-
サンスター技研株式会社
山梨県南アルプス市宮沢181-1
品質保証部
055-284-3801
055-284-3801
プライマー

2. 危険有害性の要約

重要な危険有害性及び影響並びに特有の危険有害性
引火性がある

GHS分類および注意書きを含むラベル要素
GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	皮膚感作性 特定標的臓器(単回暴露)	区分1 区分3(麻醉作用)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性) 水生環境有害性 長期(慢性)	区分3 区分3

その他の項目は、「分類できない」もしくは「区分に該当しない」

GHSラベル要素
絵表示またはシンボル

**注意喚起語****危険****危険有害性情報**

H226 引火性の液体及び蒸気
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H336 眠気又はめまいのおそれ
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き**【安全対策】**

P210 热／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地すること／アースをとること。
P241 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

P303+P361+P353 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
P333+P313 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
P370+P378 火災の場合：消火するために適切な消火器を使用すること。

【保管】

P405 施錠して保管すること。
P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

P501 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性

知見なし

プライマーMC

作成日2009年10月06日
改訂日2022年05月17日**3. 組成及び成分情報**

化学物質・混合物の区别
化学名又は一般名称

混合物
プライマー

危険有害成分

化学名又は一般名称	CAS番号	官報公示整理番号(化審法・安衛法)	含有量(%)	化学物質管理促進法(PRTR法)
酢酸ブチル	123-86-4	2-731	50 - 60%	対象外
メルカプトプロピルトリメトキシラン	4420-74-0	非公開	1.0 - 10%	対象外
キシレン	1330-20-7	3-3	2.7%	第1種指定化学物質(No80)
エチルベンゼン	100-41-4	3-28	2.0%	第1種指定化学物質(No53)
ヘキサメチレン=ジイソシアネート	822-06-0	非公開	0.1 - 1.0%	対象外

4. 応急措置**吸入した場合**

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師を呼ぶこと。

皮膚に付着した場合

直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぎ取り去ること。
水又は適温の流水で洗浄した後、石鹼を用いてよく洗い落とす。

眼に入った場合

気分が悪い時は医師を呼ぶこと。
脱いた衣類を再使用する前に洗濯し汚染除去すること。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求める。

飲み込んだ場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

知見なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

知見なし

医師に対する特別な注意事項

知見なし

5. 火災時の措置**適切な消火剤:**

小火炎:二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤

大火炎:散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤:

棒状注水

特有の危険有害性:

火災によって刺激性、毒性及び/又は腐食性のガスを発生する恐れがある。

特有の消火方法:

極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。

加熱により容器が爆発する恐れがある。

引火性の高い液体及び蒸気

消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置を取る。

大規模火炎には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

引火点が極めて低い、または消火の効果がない恐れがある場合は、容器または周囲に散水して冷却する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置:

消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置:**

作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に入る前に換気する。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

危険でなければ漏れを止める。

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

環境に対する注意事項:

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

封じ込め及び浄化方法と機材:

関係箇所に通報し応援を求める。

二次災害の防止策:

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。

回収、中和:

後で廃棄処理す。

少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる:しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ない恐れがある。

プライマーMC

作成日2009年10月06日
改訂日2022年05月17日**7. 取扱い及び保管上の注意****取扱い****技術的対策:**

保護手袋、衣類及び眼、顔面用の保護具を着用すること。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。一禁煙。

防爆型の電気、換気、照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

蒸気の発生源を密閉する設備または局所排気装置を設ける。

この物質を貯蔵しない取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

容器を転倒させ、落とさせ、衝撃を加え、または引きするなどの取扱いをしてはならない。

静電気対策を行う。作業着、作業靴は導電性のものを用いる。

取扱い作業場の電気設備は、防爆構造とし、機器類は接地する。

蒸気の発生源を密閉する設備または局所排気装置を設ける。

接触、吸入または飲み込んではならない。

取扱い後はよく手を洗うこと。

蒸気を吸入しないこと。

屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。

保管**技術的対策:**

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。

容器を密閉して換気の良いところで貯蔵すること。

冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。

酸化剤から離して保管する。

容器は直射日光や火気を避けること。

指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。

施錠して貯蔵すること。

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置**管理濃度、許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)**

成分名	酢酸ブチル	キシレン	エチルベンゼン
管理濃度	150ppm	50ppm	—
許容濃度: 産衛学会	100ppm	50ppm	50ppm
ACGIH TLV-TWA	150ppm	100ppm	100ppm

設備対策:

防爆型の電気、換気、照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

蒸気の発生源を密閉する設備または局所排気装置を設ける。

保護具**呼吸器の保護具:**

必要に応じ呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具:

保護手袋を着用すること。

眼、顔面の保護具:

眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具:

作業着等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質**物理的状態:**

液体

色:

淡黄色

臭い:

芳香族

融点／凝固点:

データなし

沸点、初留点および沸騰範囲

120°C

可燃性:

データなし

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界

データなし

引火点:

24°C

自然発火点:

450°C

分解温度:

データなし

pH:

データなし

動粘性率

データなし

溶解度:

データなし

n-オクタノール／水分配係数:(Log值)

データなし

蒸気圧:

データなし

密度又は相対密度:1.00g/cm³ (25 °C)**相対ガス密度:**

データなし

粒子特性:

データなし

その他のデータ

データなし

10. 安定性及び反応性**反応性:、化学的安定性**

常温では安定。

安定性:

データなし

化学的安定性

データなし

危険有害反応可能性

データなし

避けるべき条件:

データなし

混触危険物質:

データなし

危険有害な分解生成物(一酸化炭素、

データなし

二酸化炭素、水以外):

データなし

11. 有害性情報**急性毒性**

製品	経口	経皮	吸入(ガス)	吸入(蒸気)	吸入(粉塵、ミスト)
	区分外 3500 mg/kg	区分外 40755 mg/kg (推定値)	分類対象外	区分外 232.31 mg/l	分類できない

皮膚感作性

各成分の含有量から区分1に分類した。

特定標的臓器毒性、単回ばく露

各成分の含有量から区分3(麻醉作用)に分類した。

プライマーMC

作成日2009年10月06日
改訂日2022年05月17日**12. 環境影響情報****生態毒性****水生環境有害性 短期(急性)**

各成分の含有量から区分3に分類した。

水生環境有害性 長期(慢性)

各成分の含有量から区分3に分類した。

残留性・蓄積性

データなし。

生態蓄積性

データなし。

土壤中の移動性

データなし。

オゾン層への有害性

データなし。

13. 廃棄上の注意:**残余廃棄物**

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。**14. 輸送上の注意****陸上、海上、航空の国際規制及び国内規制****国際規則**

国連番号	1933
国連輸送名	接着剤
国連分類	クラス3
容器等級	III
緊急時応急指針番号	128
海洋汚染物質(該非)	データなし
MARPOL73/78 附屬書II 及びIBC コードによるば ら積み輸送される液体物 質(該当・非該当)	データなし

国内規制

陸上輸送	消防法に定められている輸送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている輸送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている輸送方法に従う。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
危険物は当該危険物が転落し、または危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように積載すること。
危険物または危険物を収納した容器が著しく摩擦または動搖を起こさないように運搬すること。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令**国内法令名称、規制****労働安全衛生法:****施工令 別表第一 危険物(第一条、第六条、第九条)****引火性の物****第2種有機溶剤等**有機溶剤中毒予防規則(有規則)
名称等を通知すべき、およびリスクアセスメントが必要な危険物及び有害物(57条の2、3):
酢酸N-ブチル、キシレン、エチルベンゼン
ヘキサメチレンジイソシアネート**名称等を表示すべき危険物及び有害物(57条):**酢酸N-ブチル、キシレン、エチルベンゼン
キシレン
エチルベンゼン**特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(通称 PRTR法):**キシレン
エチルベンゼン**毒物及び劇物取締法:**

非該当

消防法:

第4類 第2石油類 非水溶性液体

その他:

特に無し

16. その他の情報

ホルムアルデヒド基準:(日本シリング材工業会)ホルムアルデヒド汚染対策のための自主管理規定

プライマーMC:JSIA-004060 F☆☆☆☆

引用文献

- 1) 化学物質の危険・有害性便覧(中央災害防止協会)
- 2) 有機溶剤作業主任者テキスト(中央災害防止協会)
- 3) 許容濃度等の勧告(2005年、日本産業衛生学会)
- 4) ACGIH(2005年、日本作業環境測定学会)

この安全データシートに記載の内容は、最善の調査に基づき現時点入手できた情報により作成しておりますが、物理化学的性質、危険有害性等に関してはいかなる保証をするものではありません。本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施のうえご利用下さい。尚、法改正や新しい知見、製品の改良等に伴い、予告なく安全データシートを改訂する場合があります。